

関税は日本にとって良いことなのか？

最近、テレビのニュースやインターネットの記事などで「関税」という言葉を聞きます。

僕自身、関税によって私生活での「この商品、前より高くなったな」などという変化は感じたことはありませんが、先ほど話したとおり最近よくアメリカによる「関税」に関するニュースや記事をよく見かけます。今の世の中で関税はあまり印象が良くないように思えますが、日本にとって良いことなのでしょうか。

まず、関税とは簡単に言うと、輸入した品物(輸入品)にかけられる税金のことを言います。

たとえば、日本のりんごが1個150円でアメリカのりんごが1個100円だとします。このままだと、安いアメリカのりんごが売れてしまっていて日本のりんごが売れなくなってしまう。そこで、アメリカのりんごに関税30円をかけると130円になります。こうすることで、日本のりんごとアメリカのりんごの価格があまり変わらなくなり、日本のりんごも同じように売れるようになります。このように関税には、他国の商品に自国の商品が負けないようにする効果があるのです。

そんな関税は、インフレや国際競争力の低下、貿易摩擦に発展するリスクがあるなどのデメリットがあることにより、世間では良い印象ではありませんが、僕は、関税は良いことで、デメリットよりもメリットの方が大きいと思います。

なぜなら、関税をかけることで輸入品の価格が上がり、国内の商品の競争力を維持できるからです。維持できることで、技術開発や品質向上に投資する余裕を持てたり、国内産業が保護され、国内経済の活性化が期待されます。

そんな関税も悪いことだけではなく、良いこともあるということを再認識しました。日本とアメリカの関税の関係について、もっと深く考える必要があると僕は思いました。